



とねしょうかわらばん

2月4日版



2月1日（火）に、支援教育の学習の機会として、牧ロー二（まきぐち いちじ）さんを本校にお呼びし、2年生と4年生に「いっちゃんと わんぱく子どもたち」と題してお話をさせていただきました。牧口さんは、グラフィックデザイナーでいらっしゃる、障害を持った人々の社会進出や自立などを考えて精力的に活動されてきた方です。牧口さんは1937年のお生まれで、1歳の頃にポリオに罹患され歩行が不自由となり、小学2年生の頃

から松葉づえで通学できるようになり、中学、高校、美術学校もすべて地域の学校に通われました。美術学校卒業後の就職試験は54社すべて不採用となるも、美術学校時代の学友の助けてグラフィックデザイナーとしての活動を始められました。その生い立ちの中では様々な外的要因による課題に直面され一つ一つ乗り越えられてきました。

牧口さんと子どもたちの出会いはとても感動的でした。84歳の牧口さんに子どもたちは「いっちゃん！」と呼びかけていました。人と人とがつながることは、ありのままの人間性のぶつかり合いだということを痛感させられました。

牧口さんは子どもたちに、友達の大切さ、よくしてもらった教師との出会いや受けた恩を次々に送っていく「恩送り」、障害のある人への職業差別、戦争は絶対に起こしてはならないことなど、難しい内容を子どもたちの言葉を引き出しながら、子どもたちの心に染み入るように伝えてくださいました。コロナ禍でストレスが溜まっているであろう子どもたちに、「何があってもくじけない、仲間を信じて真っすぐに生きる」という牧口さんのお人柄が伝わってきました。我々教職員は、子どもたちから思いと力を引き出される牧口さんの姿に、改めて「教育の本質」を学ばせてもらったように思います。

お話が聞けなかった子どもたちにも、当日の録画映像を各クラスで視聴して学習することになっています。

【2年生】



紙版画、頑張っています。自分の髪の毛、顔、目や口、腕など、一つ一つのパーツをはさみで切りながら糊付けしていきます。細かなパー

ツを多く作って丁寧に張り付ける・・・手間と根気のいる作業です。私が見に行っても聞こえないのか、一心不乱に黙々と頑張っています。きっと出来上がりは「素敵な2年生」が出来上がることでしょう。最後まで諦めずに頑張って！！

【5年生】



木工で、パズルづくりに取り組んでいます。パズルのピースは電動のこぎりを使用します。初めての電動のこぎりの作業に子どもたちは「こわい！」「え！！どうすんの！」と、うろたえていましたが、教師の指示に従って電源を入れると、、「おお！すごい」「おもしろい」・・・子どもの反応は高学年になってもかわいいものです。素敵なパズルが出来上がるのを楽しみにしています。

【うれしいお話】

ある学級担任から聞いたエピソードです。お楽しみ会を子どもたちが企画して楽しんでいました。節分なので、鬼の的を作って、豆の代わりに折り紙等でボールを作った的当てを楽しみました。その後、担任は何も言わなかったそうですが、子どもたちの中から「あ、このボールみんなで触ったから手を洗わないと」と声が上がり、「そうやそうや」と子どもたちがみんな手洗いに行ったとのことでした。

校長をはじめ教職員が常に「手洗い」を言い続けてきた一つの成果かなと嬉しくなりました。学校では、朝の登校時、休み時間の後に手洗いを促す声掛けを放送でしています。子ども自身ができる感染対策を、各ご家庭でも再度ご確認をお願いします。